は4%)。

◆用語の定義 【学級生】18歳以上の知的障がい者で、青年学級参加者 【担当者」学級生とともに活動するボランティアスタッフ 【当日担当者】学級活動日のみ出席する担当者

(ア)学級生への支援が、学級活動中心

から、福祉的支援へ比重が増加

・学級生の61%が20年以上在籍。

中の食事・トイレ介助が増加。

・学級生の44%が50歳以上(2000年

・学級生の身体機能の衰えにより、活動

【会議出席担当者】学級活動等を検討する担当者会議へ出席する担当者

(イ)学級活動中の安全が十分に確保で

- きない場面の発生
- 当日担当者割合の増加、会議出席担 当者割合の減少、一部の担当者に役割 が集中、担当者間のスキルにばらつきが 発生。
- ・担当者の体制が十分ではないことで、 学級活動中の事故等が増加。

(ウ)ボランティア活動者の減少

- ・ボランティア活動への関心は低調傾向。
- ・担当者を増やす取組は様々実施して いるが、今後、担当者の大幅な増加は 見込めない状況。

(エ)新たなニーズの把握

- ・障がい福祉施設入所者や町田の丘学 園在籍生徒に対するアンケート調査によ りニーズを把握。
- ・生涯学習に対するニーズは高く、一定 数の青年学級参加希望者が存在。
- ・現状では、新たな参加者受入れ不可。

(オ) 青年学級の実施要項や本人活動を する団体への支援ルールの未整備

- ・新規受け入れ・在籍期間・定員などの 必要事項が明文化されていない。
- ・本人活動をしている団体への支援が ルール化されていない。

業 \mathcal{O}

(ア)現在の社会環境に合わせた事業目的の検討

- ・学習事業として社会環境の変化に合わせて目的・ 内容を整理する必要があります。
- ・今までの活動から、学習事業として継承していくべ き内容を整理する必要があります。

(ア)学級生の主体性を重んじ、仲間づくりを育めることを前提とする。

(エ)ボランティア希望者の大幅な増加が見込めないことを前提とする。

(イ)すべての方が安全に参加できることを前提とする。

(イ)安全性を確保して事業を実施する環境の検討

- ・安全性確保の観点から、1学級あたりの学級生数と 必要な担当者数を定める必要があります。
- ・担当者の活動内容を見直し、負担軽減策に取り組 む必要があります。

(ウ)学びたい方が公平に参加できる仕組みの検討

- ・多くの知的障がい者の生涯学習の機会となるよう、 公平性の観点から抽選制度の導入や在籍年数の考 え方の整理など、事業の仕組みを改善する必要があ ります。
- (エ) 障がい者青年学級から巣立つ本人活動の団体 への支援の仕組みの検討
- ・長年に渡って活動した学級生が、自主的な団体活 動へと巣立つ際には、団体立ち上げ時に必要な支 援の仕組みなど、円滑な自主的活動への移行支援 策を検討する必要があります。



築

 \mathcal{O}

方

向 性

(1)学習事業としての目的の整理

- ①目的:知的障がい者本人の学びの充実。
- ②継承すべきこと:仲間づくりができる学習の場、学 級生の意見をもとに活動内容を決めていく仕組み、 参加希望者の障がいの程度を限定しない。
- ③新たな要素:自立して活動ができるようなプログラ ムの要素を増やす。

優先的に 取り組む。

(ウ)毎年、新規学級生が入ることができ、かつ、現在の学級生も応募を可能とする。その際、現在の実施規模の範囲内で、できるだけ多くの対象者が生涯学習の機会を享受できるようにすることを前提とする。

- (2)安全性の確保のための緊急対策 ①担当者の役割整理と負担軽減策の実施。
- ②障がい福祉部門との連携強化(障がい福祉サービ スの活用)。
- ③学級活動を補助するため、介助の専門事業者の 導入。

(3)安全性を確保し、公平性を担保できる仕組みの 構築

- ①1学級の定員をおおむね30人と定める。
- ②在籍期間は3年間とし、継続も可能とする。
- ③抽選制度を導入する。
- ④気軽に学習事業を体験できるスポット事業を実施 する。元学級生が集える同窓会も実施する。
- (4) 青年学級から巣立つ本人活動の団体の支援
- ①支援する団体の基準や支援の仕組みを作る。 生涯学習センターの優先予約など。

事業を安全に運営できる体制を整えたうえで、多くの知的障がい者に学習機会を提供する。また、参加する方が共生社会への理解を深められる場として事業を実施する。

			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	スケッ	現在の青年学級の対応	学級生の個別面談実施	青年学級50周年記念成果発表会を実施		→新たな仕組みへ
				10月以降生涯学習センター	-休館、事業規模は別途調整したうえで実施	
	ンユー:	(2)安全性確保対策	安全性の確保のための対策に向けた準備 担当者から意見聴取	安全性の確保のための緊急対策の実施		
	ル	(1)目的整理(3)公平な仕組み (4)団体支援	新たなニーズに対するヒアリング	新たな仕組みの検討 運営協議会等に報告・意見聴取	新たな仕組みの導入に向けた準備 運営協議会等に報告・意見聴取	新たな仕組みを導入し、新規参加者の受入れを開始